

総務教育常任委員会資料

(平成30年5月21日)

【項目】	ページ
1 日本財団との連携による人材育成プログラムの開始について 【とっとり元気戦略課】・・・1	
2 第92回関西広域連合委員会等の開催結果について 【広域連携課】・・・2	
3 第3回日中知事省長フォーラムへの参加結果について 【広域連携課】・・・4	
4 若者定住・関係人口拡大チーム第1回会議の開催結果について 【とっとり暮らし支援課】・・・6	
5 「来んさいな 住んでみないや とっとり」県民会議の開催結果について 【とっとり暮らし支援課】・・・別冊	
6 女星活躍とっとり会議の開催結果について 【女性活躍推進課】・・・別冊	

元気づくり総本部

日本財団との連携による人材育成プログラムの開始について

平成30年5月21日
とっとり元気戦略課

このたび日本財団との共同プロジェクトとして、県内高校生を対象とした人材育成のための新たなプログラムを開始します。

このプログラムは、県立・私立の高校生達が地域の課題を抽出・整理し、事業計画を立て、具体化していく道筋を立てていくことで、地域を担う将来の人材の育成につながることを狙いとして取り組むものです。

1 名称 ソーシャルイノベーションハイスクール合宿 2018

2 日程 平成30年8月4日(土)～6日(月)(2泊3日)

3 場所 山の宿 中の原ぎんれい (鳥取県西伯郡大山町大山)

4 内容

全県の高校生を対象として、高校生自身が地域の課題を抽出、整理し、事業の計画を立て、具体化していく道筋を立てて考えていく学習プログラムを大山町で開催する。

当日は助言者によるアドバイスを受けながら、高校生達のアイデアや、現在既に取り組んでいる内容について意見交換やワークショップを行い、企画を練り上げ、磨きをかける。

最終日には高校生自身によるプレゼンテーションを通じて優秀なチームを選出し、選出されたチームを東京で開催する「ソーシャルイノベーションフォーラム 2018」に招待する。

5 対象者

鳥取県内全域の高校生(公立、私学、学年を問わない)

地域の課題に興味・関心を持ち、各種活動への意欲を有する高校生

複数人によるチームでの参加のほか、一人での参加も可能

6 参加費

無料(現地まで県内各地からバスで送迎のほか、宿泊費、食費等は日本財団にて負担)

7 事前説明会

合宿への参加者が増え、議論が深まるよう、参加申込みの前に、専門家も交えて、本プログラムに関する事前の説明会・ワークショップを開催する。

8 スケジュール

6月9日～10日 県内3ヶ所(東部、中部、西部)にて説明会・ワークショップを開催

6月30日 合宿への参加申込み期限

8月4日～6日 夏季合宿(大山町)

9月8日 招待者参加によるソーシャルイノベーションフォーラム 2018 開催(東京)

(参考) ソーシャルイノベーションフォーラム 2018

社会課題の解決に関心の高い活動家達が全国から集まり、取組の発表や意見交換を通じて、その知見を共有し、今後の日本の未来を考え行動していくためのフォーラムであり、平成27年より日本財団が主催して開催している。

- ・実施時期：平成30年9月8日(土)
- ・実施場所：東京(渋谷ヒカリエ)
- ・参加費：旅費、宿泊費等を日本財団にて負担

第92回関西広域連合委員会等の開催結果について

平成30年5月21日

広域連携課

平成30年4月26日(木)に大阪市内で開催された第92回関西広域連合委員会等の概要は次のとおりです。

第1 第14回関西広域連合協議会

1 日時 平成30年4月26日(木) 午後1時から3時30分まで

2 場所 大阪市内(リーガロイヤルNCB)

3 出席者 <関西広域連合委員の出席者>

井戸連合長(兵庫県)、仁坂副連合長(和歌山県)、三日月委員(滋賀県)、西脇委員(京都府)、飯泉委員(徳島県)、門川委員(京都市)、新井副委員(大阪府)、村井副委員(奈良県)、野川副委員(鳥取県)、玉田副委員(神戸市)

<関西広域連合協議会委員の出席者> 33名

※うち、鳥取県選出協議会委員の出席者

中島 守委員(鳥取県観光連盟会長)

清水 正人委員(鳥取県医師会副会長)

岸田 寛昭委員(NPO法人未来理事長)

吉田 友和委員(公募委員(吉田建設㈱代表取締役))

4 概要

第3期広域計画及び関西創生戦略(改訂版)並びにこれまでの関西広域連合の活動を踏まえつつ、これからの関西広域連合の役割、展望、あり方及び今後の施策、事業の展開等について、協議会委員と連合委員との間で意見交換を行った。

<意見交換の主な内容>

(中島協議会委員)

- ・全国各地で、地震・大雨・大雪等の大規模自然災害が発生している。災害の後、比較的長期にわたり被災地の観光入込客数の落ち込みがあるため、被災地以外の構成団体から送客を促がす仕組み作りを広域連合として検討して頂きたい。

(西脇委員)

- ・被災地で一番大切なことは、被災の正確な情報を関西広域連合の構成団体だけでなく、全国に向けて安心安全を発信していくことが重要である。
- ・日頃から、大阪や京都に集中している観光客を広く集客する取組を行うことで、災害時にも有効と考えられるので、引き続き広域観光について努力していきたい。

第2 第92回関西広域連合委員会

1 日時 平成30年4月26日(木) 午後4時25分から5時20分まで

2 場所 大阪市内(リーガロイヤルNCB)

3 出席者 井戸連合長(兵庫県)、仁坂副連合長(和歌山県)、三日月委員(滋賀県)、西脇委員(京都府)、松井委員(大阪府)、飯泉委員(徳島県)、村井副委員(奈良県)、野川副委員(鳥取県)、植村副委員(京都市)、鍵田副委員(大阪市)、中條副委員(堺市)、玉田副委員(神戸市)

4 主な概要

(1)「関西スポーツの日」及び「関西スポーツ月間」の制定について

「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」に向けた機運醸成と府県民のスポーツへの参加を促進するため、3年後の開会日となる5月14日を「関西スポーツの日」に、5月を「関西スポーツ月間」とすることを決定した。

<本年度の主な活動>

- ・ 5月中のスポーツ月間に開催される主なスポーツイベントで、キャッチコピーを活用したポスターやのぼり旗の掲示により広く府県民へ周知
- ・ 5月14日の関西スポーツの日は、構成府県市の主要駅において啓発グッズの配布や関西一円での街頭キャンペーンを実施

<本県での期間中の主なスポーツイベント>

- ・ グランド・ゴルフ国際大会 YURIHAMA2018 (5/19.20 グランド・ゴルフのふる里公園)

(2) 「関西女性活躍推進フォーラム」の平成30年度取組予定について

「働く女性が日本で最も活躍できる地域・関西」の早期実現を目指し、関西地域の経済団体や地域団体、行政等により構成された「関西女性活躍推進フォーラム」について、内閣府と共催で実施する「関西女性活躍推進シンポジウム」の開催など平成30年度の取組予定について報告された。

(3) 「鳥取県ドクターヘリ」の運航開始式の開催結果について

鳥取県全域及び兵庫県北西部等を運航範囲とする「鳥取県ドクターヘリ」(KANSAI・おしどり)について、3月26日(月)に運航開始式を開催したことについて報告された。

<運航実績>

- 期間：運航開始日3/26から4/23まで(延べ23日) ※悪天候による出動不可日数5日除く
- 出動件数：18回(鳥取県15回、島根県3回)

第3回日中知事省長フォーラムへの参加結果について

平成30年5月21日
広域連携課
交流推進課

日本全国知事会、中国人民対外友好協会、中国日本友好協会主催により札幌市で開催された第3回日中知事省長フォーラムに、平井知事が参加し、中国から参加の各省長等と今後の地域間交流等について意見交換しました。

1 第3回日中知事省長フォーラム

(1) 日時 平成30年5月11日(金) 午前9時30分から午後1時まで

(2) 場所 札幌パークホテル・パークホール(北海道札幌市)

(3) 参加者 (日本側) 安倍晋三首相

上田清司埼玉県知事(会長)、高橋はるみ北海道知事(開催地)、
達増拓也岩手県知事、吉村美栄子山形県知事、川勝平太静岡県知事、
石井隆一富山県知事、平井伸治鳥取県知事

(中国側) 李克強(リ・カチァン) 中華人民共和国国務院総理

李小林(リ・シヤオリン) 中国人民対外友好協会会長、尹力(イン・リ) 四川省省長、
許勤(シュー・チン) 河北省省長、唐一軍(タン・イ・ジュン) 遼寧省省長、
王文涛(ワン・ウェンタオ) 黒竜江省代理省長、吳忠琮(ウ・ジョンチン) 江西省副省長

(4) テーマ 「日中地域間交流の深化と発展」

(5) 結果

- 全国知事会上田清司会長(埼玉県知事)、中国人民対外友好協会李小林会長の挨拶の後、来賓として安倍晋三首相、中華人民共和国李克強国務院総理が挨拶され、フォーラムが開会した。
- 安倍首相からは、地域間交流が日中関係の友好の源であるとの認識が示され、今回のフォーラムで両国地域の良い事例を交換し、新たな地域間交流形成への期待が表明された。李克強国務院総理からは、中日両国の友好が世界の発展にも重要であるとの認識の下、今回の中日関係改善の契機を捉え、地方間交流を、イノベーションや農業の分野などで一層拡大して欲しいとの期待が示された。
- 各知事・省長から、「省エネ、環境保護と技術イノベーション」「観光プロモーションと地方経済振興」「防災減災と持続可能な発展」についてのプレゼンテーションがなされ、これらの分野で一層緊密な協力関係を構築していくことで一致し、新しい時代の日中地域間交流の発展に向けて日中知事省長が交流、協力して取り組んでいくこととした。
- 平井知事は、「防災減災と持続可能な発展」をテーマに、鳥取県中部地震と、その復興の動きについて、地域の絆、国際交流を通じた中国河北省からの支援、吉林省との防災に向けた取組を紹介し、国の枠組みを超えた協力体制づくりの必要性について説明した。併せて、まんが王国、星取県といった本県の観光紹介や日中間の交流に尽力された本県出身の古井喜實先生や遠山正瑛先生の業績を紹介しながら、人と人、地域と地域で交流を進めることの重要性を強調し、友好提携先である河北省・吉林省との交流を紹介した。

2 許勤(シュー・チン)河北省省長との会談

(1) 日時 平成30年5月11日(金) 午前7時から7時30分まで

(2) 場所 札幌グランドホテル「白雲」(北海道札幌市)

(3) 出席 (河北省) 許勤省長、朱浩文秘書長、劉曉軍外事弁公室主任ほか
(鳥取県) 平井知事、森田広域連携課長、遠藤交流推進課長ほか

(4) 概要

- 平井知事から、許勤省長の来日を歓迎するとともに、32年の交流の歴史を持つ本県と河北省との関係について、今後もしっかり継承し、河北省でも開催される2022年の北京オリンピックに向けたスポーツや観光面での交流や経済分野の交流を発展させていきたい旨の挨拶を行った。

○許勤省長から、これまでの両地域の密接な交流について感謝が述べられるとともに、地域間交流が日中両国の交流の大切な部分であるとの認識の下、北京オリンピックに向けたスポーツや文化、観光面での交流や農業面での交流の拡大について希望が述べられた。

3 その他

- 平成30年5月10日（木）に開催された中華人民共和国李克強国务院総理歓迎夕食会に際して、平井知事から李克強国务院総理、王毅（ワン・イ）外務大臣、程永華（チェン・ユンファ）駐日中国大使、各省省長に、鳥取県について紹介した。
- 唐一軍（タン・イジュン）遼寧省省長、王文涛（ワン・ウェンタオ）黒竜江省代理省長に対して、今年7月に本県で開催予定の第6回GTI（大図們江イニシアティブ）地方協力委員会への関係者の参加を依頼した。

（参考）平井知事日程

月日	日程
5月10日 （木）	19:45-20:45 中華人民共和国国务院総理李克強閣下歓迎夕食会[札幌パークホテル]
5月11日 （金）	7:00-7:30 許勤河北省省長との二地域間会談[札幌グランドホテル]
	8:45-9:15 唐一軍遼寧省省長、王文涛黒竜江省代理省長等と懇談[札幌パークホテル]
	9:30-13:00 第3回日中知事省長フォーラム[札幌パークホテル]

（写真）



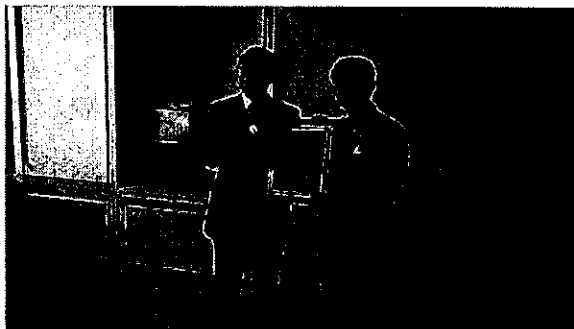
第3回日中知事省長フォーラム
全体記念撮影



フォーラムで発表する平井知事



許勤河北省省長と平井知事



若者定住・関係人口拡大チーム第1回会議の開催結果について

平成30年5月21日
とっとり暮らし支援課

県内外の若者が「ふるさと鳥取」との関わりを深めることで、県内定着・I J Uターンにつながる取組を推進し、若者の県外流出に歯止めをかけることを目的に、とっとり元気づくり推進本部に設置された部局横断的に推進するプロジェクトチーム「若者定住・関係人口拡大チーム」の第1回会議を次のとおり開催しました。

今後は、「来んさいな 住んでみないや とっとり」県民会議と連携して、若者の定住促進や、関係人口の拡大に向けた取組を推進していきます。

- 1 日時 平成30年4月27日(金) 午後1時から2時まで
- 2 場所 第4応接室(本庁舎3階)
- 3 出席者 統轄監(チーム長)、関係部局(元気づくり総本部、地域振興部、観光交流局、福祉保健部、生活環境部、商工労働部、農林水産部)、県外本部、総合事務所、教育委員会事務局
- 4 議題 平成30年度の若者定住・関係人口の拡大に向けた課題と主な取組
- 5 概要 若者定住と関係人口の拡大に向け、平成30年度の取組方針を確認するとともに、各部局が連携して取組を推進することについて確認した。

【主な意見】

<課題認識>

- ・20代前半の若者の転出超過が喫緊の課題であり、若者の定着と若者のI J Uターン促進が重要である。
- ・移住者の伸び率が鈍化していることから、とっとりに関わる人(関係人口)を増やすため、新たな層への働きかけが必要となっている。

<高校生・保護者等への働きかけ>

- ・保護者の方は、高校生の半分が県外に進学し、県外大学に進学すると3割しか地元に戻らないという実態を知らない。保護者にこうした状況や、県内にいい企業があるなどの情報を提供していく必要がある。
- ・小中学生は子ども会、地域の集まりなどで地域との関わりがあるが、高校生は部活や通学等でつながりが薄れ、その状態で都会に出ていく。高校生に対し、地域に移住してきた人から移住してきた理由や地域の魅力を伝える機会があってもいいのではないかと。
- ・特に普通科高校の卒業生が県外に出ている状況であるため、新たに普通科高校におけるインターンシップモデル事業に取り組んでいくので、県内企業のメニューを示すために商工労働部と連携したい。
- ・県内高校から県内大学に入ってもらうために、教育委員会と連携し、高大接続をやっていききたい。

<大学生・大学への働きかけ>

- ・行政情報をSNS等で発信しても必ずしも学生が見ておらず情報が届いていないという課題がある一方で、学生同士の中では情報の行き来があることから、学生グループを通じて学生に情報を届けるという新たな取組や、学生自らが県内企業を取材して、就活サイトで情報発信する取組を開始する。
- ・保育士の確保に向けて、保育を目指す学生に保育情報の発信を行っている。幅広い鳥取県の情報発信だけではなく、ターゲットを絞ったピンポイントの情報を届けることを全庁で考えてもよい。
- ・県外大学のフィールドワークが進んでいるが、例えば青山学院大学等と連携して、既存施設を活用した新たな取組を実施し、将来的なサテライトキャンパスの設置に向けて新機軸を出していきたい。
- ・包括連携協定大学を中心に就職カフェを開催しているが、大学内に本県出身者のネットワークをつくりUターンの意識づけをしていきたい。
- ・未来人材育成奨学金の取組では県内就職者が163人、そのうち県外から戻ってきた人が約7割とかなりの効果がでている。今回新たに専門学校を対象とし、業種にも農林水産業を加えるよう拡充した。
- ・従来、無償型のインターンシップに取り組み、年々参加者も増加し、約3割が県内就職に結びついている。今年度から長期有償型インターンシップを導入するので、県外大学等を訪問して学生の確保に努めたい。

<関係人口の拡大>

- ・マイナスの課題が起点となって関係人口につながっている。地域ぐるみで課題を洗い出し、浮き彫りにして受け皿づくりなど、モデル的な取組を進めていくことが必要である。
- ・県内の地域活動団体と連携して、地域の課題に関心のある都市部の人材を呼び込む取組や田舎暮らしに関心のある女性を対象にした交流会などターゲットを絞った取組を実施していく。
- ・関係人口の入口で観光というのはすごく大事で、そのキーワードとして農泊や体験型教育旅行があるが、県内では大人数の受け入れが難しい状況であるため、地域の中で受け手を増やす活動をしていきたい。
- ・クラウドファンディング型のふるさと納税を工夫して、関係人口の増加につなげてはどうか。